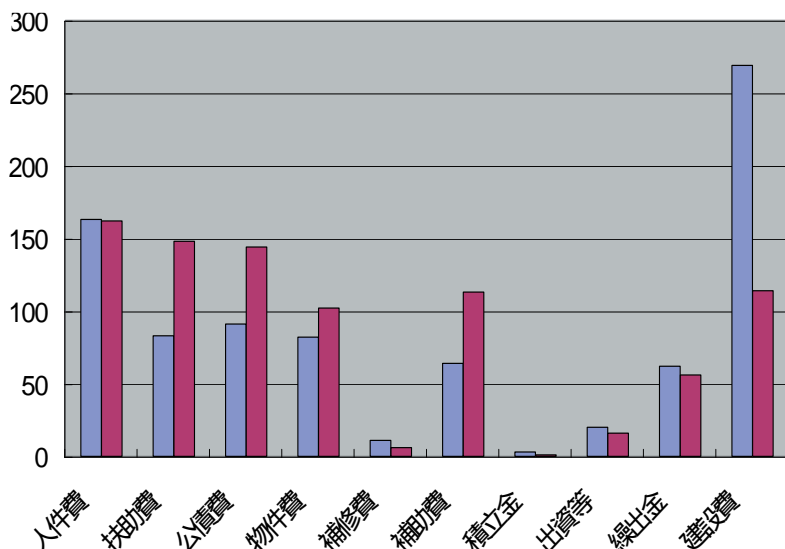


施設が「ポンコツ」に?!

官僚ではなく地方が予算を決定できるように変えよう!

■ 2005 年度予算—激減する維持補修費・建設費

94 年度 (左) 05 年度 (右)、盛岡市一般会計予算の比較 (単位億円)



今年度とほぼ財政規模が同じ 1994 年度の予算と比較すると、扶助費・公債費・補助費などが大幅に伸びているのに比べ、建設費や補修費は半分～半分以上の減額になっています。

この状態が長く続けば、施設の老朽化や冬季の凍結による道路の破損などがそのまま放っておかれることになり、市民生活に大きな支障がもたらされる可能性が大きくなってしまいます。

■ 霞ヶ関の官僚の利権はそのままで市民協同を進めることはできない

「三割自治」と言われるように、地方自治体事業の多くは国家官僚によって決定されてきました。必ずしも最優先事業とは言えないダム建設や大型道路・ハコ物の建設計画が進められて来たのは、それらの事業に国からの補助金が真っ先につくからです。現在、盛岡市が必要としている施設の補修などには、あまり補助がありません。

「地方分権」という言葉とは裏腹に、小泉首相がこの 2 年間に国から地方に移した税源は、公立保育園運営費や国民健康保険国庫負担など、地方独自の計画で決定できない物ば

かり。また、霞ヶ関の官僚が持つ許認可権に乗った、特殊法人・公益法人の解体も一向に進んでいません。

結局、彼らは既得権を手放したくないのです。政府もそれに迎合しています。

こういう中「財政不足を理由とした市民との協同」がまことしやかに語られています。政府や官僚の責任をうやむやにするためではなく、税金の使い道を市民が決定する、本当の意味の「市民参加」を実現するために、官僚が持つ既得権を壊していくことが必要なのだと思います。



盛岡市議会議員

いせ志穂 (市民会議)

事務所 盛岡市青山 3-29-4 〒020-0133

電話・FAX 645-8510

自宅 盛岡市前九年 1-9-26 〒020-0127

電話 646-5396

<http://www.nnet.ne.jp/~ise/> E-mail: ise@nnet.ne.jp

発行 2005. 4. 27

青山町のグランドデザインをつくろう 「ずっと暮らしたい」と思える街をみんなの手で

06年3月1日青山新駅開業
被覆練兵場は保存・活用へ

来年3月1日、IGR・いわて銀河鉄道青山新駅が開業します。また、取り壊しが予定され、保存運動が起きていた青山小学校隣の被覆練兵場(通称赤レンガ)を盛岡市は国との土地の等価交換によって取得。歴史的建造物として保存しその活用を検討していくこととなりました。

この二つの施設によって青山町周辺が大きく変わる可能性が生まれてきました。



新駅の周辺整備について意見を聞く会
(4月10日 青山三丁目公民館において)

青山新駅グラウンドワーク

「グラウンドワーク」とは、住民・企業・行政が一緒になって、地域の身近な環境の整備・改善に取り組む活動です。新しく出来る駅が市民に長く愛される様にと「みんなで作る

青山銀河ステーションの会」が、昨年から取り組んでいます。私は、この取り組みをもっと広げて行きたいと思います。

住民が「住みたい街」を作ろう

今から約30年前、私が厨川中学校の生徒だった時分、青山町はとても華やかな街でした。残念ながら現在は必ずしもそうは言えない状況です。

商店街の衰退や地域の高齢化によって、日常生活が大変になる地域が盛岡の中にも生まれてきています。次の世代になっても暮らしやすい地域にしたい、と私は思います。そのためには、青山町周辺に住む人たちが「こん

な地域に住みたい」という要望を出していくと共に、行政や企業と力を合わせたまちづくりを始める必要があります。

ぜひ、青山新駅グラウンドワークにご参加下さい。また、赤レンガの活用や管理についても一緒に考えてくださる方を募集しています。子や孫の代までも「ずっと暮らせる青山町」を一緒につくりましょう。

道路の「穴ぼこ」など不具合について教えてください

冬の凍結などにより、道路の破損が目立ちます。道路の穴などのせいで事故が起きる前に補修が必要です。盛岡市では職員によるパトロールを行っていますが、全域に目が届くわけではありません。補修が必要な部分に気づいたら、いせ志穂事務所までお知らせ下さい。

電話・FAX 645-8510 メールアドレス ise@nnet.ne.jp